

2014（平成 26）年度 経済学研究科自己点検・評価報告書

経済学研究科では、特に「本学の建学 3 指針を背景に、高い語学能力、経済学の専門能力と実践力のある国際的な人材を輩出することを目的」として、様々な改革に取り組んできた。本年はさらに、2011（平成 23）年 1 月に中央教育審議会大学分科会大学院部会より提出された「グローバル化社会の大学院教育」に基づき検討を加えてきた。その取り組みと、今年度の成果について点検・評価を記すことにする。

【1】経済学研究科の現況

2014（平成 26）年度の院生数は、以下の通りである。

博士前期課程 1 年 2 名、2 年 5 名 合計 7 名

博士後期課程 1 年 2 名、2 年 0 名、3 年 9 名 合計 11 名

教員数 23 名

【2】「スーパーグローバル大学創成支援」採択と経済学研究科

本年度本学は、「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された。これにともなう、本研究科も様々な変革に取り組むことになった。

経済学研究科では、「研究科検討委員会」を組織し、月 1 回の会議を設け議論を続けてきた。その中での焦点は、「留学生数の拡大」に定められ種々検討を加えた。

まず 1 つめは、「秋入学」の推進である。これまでも議論が繰り返されてきたが、本格的に 2016（平成 28）年度実施に向けて諸制度を見直すこととなった。第 2 に、英語だけの講義により課程が修了できる、いわゆる「English Track」の策定を開始した。具体的な科目や担当者に関する詳細は、次年度に持ち越されることになるが、実現に向けて一歩前進の年度となった。第 3 に、留学生に向けての広報活動についても議論がなされ、独自のパンフレット等の作成を計っていくことになった。

「スーパーグローバル大学創成支援」採択校としての責務を果たすべく、経済学研究科もその一翼を担う改革に着手している。

【3】カリキュラムの点検とコースワーク

経済学専修と経営学専修の 2 専修を有する経済学研究科では、本年度カリキュラムのマイナーチェンジを計った。最新の研究事情に合わせ、科目名の変更等を実施した。しかしながら要請の強いコースワークの実施については検討が進まず、制度の改変には至らなかった。この点についての課題は、次年度にきちんと現状分析を行い、

必要な部分から順次改革に着手していくことにしたい。

以上、本年度の取り組みとその成果を簡単にまとめた。山積した課題は誠に多いと言わざるを得ないが、一つひとつ点検・分析を加え、よりよい研究科の建設に向けて、明年度もたゆまぬ努力を継続していく所存である。